

2021年度第1回豊岡市障害者自立支援協議会全体会議 会議録要旨

注) 会議録については、発言内容を一言一句正確に整理したものではありません。
発言内容をもとに一部表現(文言)を変えて表記している箇所があります。

○日 時: 2021年10月26日(火) 13:30~14:40

○会 場: 豊岡市立野庁舎 1階 多目的ホール

○出席者: 16名

○欠席者: 5名

○会議要旨

1 開 会

2 あいさつ

3 新しい委員の紹介

4 報告・協議事項

(1) 部会及びグループの取組について

① しごと部会

- ・ 資料に基づき説明

○ 質疑応答等

【H委員】

農福連携で、以前田植えの準備で参加し、農家の方に話を伺った。農業は1年間通じて何らかの仕事がある、とのことだった。農家の手が足りないようだったが、それ以降は農業の仕事の紹介は続かなかった。仕事はあるが、その連絡をいただけてないのか、障害があるため無理であると思っておられるのか、どちらかであるかは把握できていない。

B型就労継続支援はほぼ満員だが、就労移行支援は少ない。理由がわからないが、申し込みがない。

【運営会議委員】

農業者と福祉のつながりが統一されておらず、全部を把握できていないところがある。大まかに作業の割り出しをし、双方が納得できるような単価表ができればいい。将来的には、生活困窮者にも広げていけたらと思っている。

② こども部会

- ・ 資料に基づき説明

○ 質疑応答等

【F 委員】

「教育と福祉、保健との連携がうまくいっていない。」との報告だったが、具体的にどのようなことか教えてほしい。

【運営会議委員】

お話カフェで、社会福祉課の職員に障害福祉サービスの説明をしてもらったが、作成にあたって知らないことが多く、教育の内容はわかっていないと感じた。

放課後等デイサービス利用者について、学校は児童がサービス利用していることは知っているが、そこで何をしているのか、そこでの目標はどのようなものであるかまでは把握していない。

保護者の中には、サポートファイルは先生とやりとりしているが、どのように情報連携されているのかわからないという声があった。

【副会長】

「連携がうまくいっていない。」というのは、組織の問題であるのか。連携不足は、専門分野が違えば、仕方がない。組織的にそれぞれのテリトリーがあるが、それを少し柔軟に対応したらいいことなのか。所属しているものが違えば、自ずと情報共有できないのは仕方がない。抜本的に変えないといけないうことなのか、1歩2歩変えたら変わるものなのか。

【運営会議委員】

例えば、健康増進課では、発達障害児の早期療育・早期発見に取り組んでいるが、療育のほうで受け皿がなかったりと、仕組みの問題もある。教育を受ける際に、いつから動き出さないといけないのか、情報を知る機会がないと言われる。こども部会も、保健と福祉の関係者だけになっていて、長期的に教育の人に入ってもらうことも必要であり、連携は必要である、と感じている。

【副会長】

「空き状況がわからず、電話をかける負担感がある。」となっているが、SNS で挙げたりすることはできないのか。

【運営会議委員】

篠山市では市のホームページで空き状況を挙げられていて、そのようにわかればいいと感じているが、具体的な検討には至っていない。

【会長】

次回、事業所でお話カフェをされるとのことである。他の事業所との連携も薄いところがあり、努力していきたい。

【D 委員】

教育と福祉の連携でサポートファイルを活用しているとのことであった。今回、教育関係者も来ていただいているので、教育の分野から見て、福祉の連携が必要であると感じているのか。

【Q 委員】

各市町のサポートファイルを扱っているが、各市町で扱いに差が生じている。保護者に権限があるところや、学校に権限があるところがある。但馬内で統一されたら、使いやすくなる。

学校では、個別の指導計画（成績に関係）と教育支援計画の2本立てになっていて、サポートファイルと教育支援計画が連携できれば、活用しやすいと思っている。子どもの成長に係るパンフレッ

トなどあれば、もっとサポートファイルを知ってもらいやすい。

【P 委員】

本校では、全員サポートファイルを持っている。小・中学校の状況はわからないが、特別支援学校には学校の計画があり、出しづらいものである。連携には、なかなか意識が向いていないところである。

③ せいかつ部会

- ・ 資料に基づき説明

○ 質疑応答等

【副会長】

「院内のガイドヘルパーの人材育成」とあるが、今のガイドヘルパーの方を付き添いができるようにするのか、ボランティアを有償にしようとするのか。

【運営会議委員】

豊岡市ではガイドヘルパー自体が少なく、増やせないかと考えている。研修を受ければできると聞いていて、ガイドヘルパーを増やすことと、一般の方や障害のある方も可能であれば養成していければと考えている。

【D 委員】

院内介助は、受診までの待ち時間や薬を受け取るまでの待ち時間など、時間が読めずヘルパー事業所の負担が大きい。少しの見守りがあれば受診できる方の場合、ピアサポーターに付き添ってもらい定期受診している。ピアサポーターは医師への説明が難しいが、様式を決めてそれを持っていけば、ピアサポーターが連れていくことは可能である。そのような人を養成できないかと検討している。

【会長】

サービスとサービスの隙間をどのように埋めていくのか。事業所同士の連携、福祉と医療の連携を検討してほしい。

④ 相談支援グループ

- ・ 資料に基づき説明

(2) 運営会議からの報告について

- ・ 資料に基づき説明

○ 質疑応答等

【D 委員】

足りない人材を確保するために、福祉系の学校にPRできないかとか、研修ツアーをして豊岡の事業所を見てもらうのもいいのではないかなどのお話も出ているが、新型コロナウイルスの影響で難しい。

まずは、今ここで働いている人を対象に研修をし、自分の仕事にやりがいや価値を見出したり、

疲弊せずにやり続けられるという土壌を作っていきたい。事業所の研修体制でされている所は少ないと思うので、そこを自立支援協議会で担っていかないといけないのではと思っている。

2月に予定している研修は、福祉の仕事や理念について話をしていただける講師で、わかりやすく説明してもらえと思う。現場の職員だけではなく、管理者にも聞いていただいて、自立支援協議会として今後の人材育成について検討していきたい。アンケートも併せて行い、次年度の研修内容について検討できたらと思っている。

【副会長】

人材不足と言っているが、数量的に根拠で示せるものがあつたほうがいい。看護系の職員は、離職率や、入職後何年で辞めてしまうのか、どういう理由で辞めて、次にどのような仕事をしているのか、データを出している。このように示すことも必要なのではないか。離職した人の性別、経歴、有資格、法人か否か、正規か非正規か、ある程度数量化することで、どこにスポットをあてればよいかが見えてくると思う。

【会長】

数量化することも検討いただきたい。

【D 委員】

研修に参加してもらうことで、現場の皆さんが障害者自立支援協議会について関心を持ってもらい、地域課題を一緒に考える仲間を広げたいと考えている。

【副会長】

新型コロナウイルスの影響による生活様式の変化で、対面でやることの必要性和、オンラインでやっても十分できることの使い分けができると分かった。豊岡は面積も大きく、移動に時間がかかることもあり、オンラインの時はオンライン、対面の時は対面と分けることで、物事を効率的に進めることができると思う。

【会長】

県の研修もオンラインで行われている。グループワークをするには対面式がいいと思うが、オンラインも有効に使いながら、効率的にできたらと思う。

5 その他

- ・ 特になし

6 閉 会